

SHOW HEY シネマールーム

★★★★★

玄界灘は知っている

1961年／韓国映画
製作会社：韓国芸術映画社／117分

2020（令和2）年3月23日鑑賞 シネ・ヌーヴォ

Data

企画・脚色・監督：金綺泳（キム・ギヨン）

原作：韓雲史（ハン・ウンサ）

出演：孔美都里（コン・ミドリ）／金雲夏（キム・ウナ）／李藝春（イ・イエチュン）／金振奎（キム・ジンギョ）／キム・ウンハ

みどころ

キム・ギヨン監督が韓雲史の自叙伝的小説に基づき「光復映画」に挑戦！全3部作の原作は、五味川純平の『人間の条件』全6部作に比較されるそうだが、朝鮮人の志願兵が日本の軍隊に入り、オール朝鮮語の中でいじめ抜かれるストーリーは違和感いっぱい！また、『人間の条件』に見た梶上等兵と美千子との純愛（夫婦愛）には涙したが、本作における「秀子さん」との悲愛も違和感いっぱいだ。

さらに、クライマックスとなる名古屋大空襲と、そこに見る主人公の復活(?)についても、あなたはどうか考える？しかし、ものすごい映画を鑑賞できたことに感謝！

* — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■先の大戦では朝鮮人も神風特攻隊に！■□■

私は、2015年3月7～9日の鹿児島特攻戦跡旅行ではじめて知覧特攻平和会館（旧陸軍知覧飛行場跡）と、ホテル館富屋食堂を見学した。「特攻の母」として慕われた鳥浜トメが経営する富屋食堂は、軍の指定食堂として特攻隊員に使われていたが、そこを舞台に展開された物語とは？高倉健と田中裕子が共演した『ホテル』（01年）では、朝鮮人でありながら日本軍の特攻隊員として死んでいった金山少尉の出撃前夜の故郷の歌「アリラン」を歌う場面が私を含む多くの観客の涙を誘っていた（『シネマ2』34頁）。このように、「先の大戦」では、朝鮮人も大日本帝国や天皇陛下のために死んでいったわけだ。本作を鑑賞するについては、何よりも大日本帝国時代の日本が朝鮮を植民地にしていたことを理解したうえで、朝鮮人も大日本帝国の軍隊に組み入れられていたことを理解する必要がある。

他方、中国の「抗日映画」と同じように、韓国では日本統治時代の苦難を描く「光復映画」と呼ばれる映画があり、本作はその範疇に属するもの。しかし、なぜキム・ギヨン監

督は本作で『人間の条件』(59～61年)、『シネマ8』313頁)や『兵隊やくざ』(65年)を彷彿させる(?)、日本陸軍の新兵いじめの姿を延々と描いたの?また、その邦題が『玄界灘は知っている』とされているのは一体なぜ?さらに、パンフレットの解説によれば、本作の原作は韓国の人気作家・韓雲史の三部作からなる自伝的小説で、ラジオドラマ化で人気を博し、映画化の後、1967年にはテレビドラマにもなっているらしい。そして、その小説は邦訳も出版され、しばしば五味川純平の『人間の条件』と比較されているようだ。

■□■本作の主人公は?出身は?身分は?思想は?■□■

神風特攻隊は1944年10月20日にはじめて編成された(最初の突入は10月25日)が、ネット情報によれば、大日本帝国が「陸軍・特別志願兵の臨時採用規則」を發布し、学徒兵の志願を募ったのは、それよりちょうど1年前の1943年10月20日。そして、「生誕100年記念 異端の天才 金綺泳」のパンフレットの門間貴志氏の解説によれば、朝鮮人である本作の主人公ア・ロウン(孔美都里(コン・ミドリ))は、日本の中央大学予科在学中に徴集された原作者・韓雲史の分身らしい。もともと、ネット情報によると、「志願」という美名とは裏腹に、その実態は強制に近いものだったことは異常に高い志願率から明らからしい。なるほど、なるほど。

他方、ネット情報によると、朝鮮人志願兵の選抜条件は、「思想堅固ニシテ体躯強健、精神に異常ナキ者」で、「前科者殊に民族主義者、共産主義運動等に関係せし者は之を採用せず」と明記されていたから、ひょっとしてロウンが民族主義者だったとすると、新兵(二等兵)になったロウンはひどい差別、いじめを受けるのでは・・・?

■□■いくら何でも、朝鮮語での軍隊描写はノーサンキュー■□■

二等兵として軍隊に入ってきた新兵が、まず基礎訓練を受けるのは当然、『彼らは生きていた』(18年)はイギリスの帝国戦争博物館に所蔵されていた、第1次世界大戦中に西部戦線で撮影された数千時間に及ぶモノクロ戦争映像から約100時間の映像資料を選び出し、それに気の遠くなるような映像の修復とカラーリング、音声を加えて3D映像化した奇跡のドキュメンタリー映画だった。そして、同作では、第1次世界大戦の勃発に伴って兵隊を志願したイギリスの若者たちが、苦しいけれども楽しそうに訓練を受けている風景に驚かされた。しかし、日本の軍隊における古参兵による新兵いじめの悲惨さは、『人間の条件』全6部作、『兵隊やくざ』シリーズ、『戦争と人間』(70年、71年、73年)、『シネマ2』14頁、『シネマ5』173頁)3部作等を見れば明らかで、私の頭の中にはその強烈な印象が残っている。

しかして、ロウンが配属された名古屋の部隊で、朝鮮人の新兵たちの指導にあたるのは森一等兵。ロウンの思想的偏向をあらかじめ聞かされている森がロウンをいじめにかかったのは当然だが、そこで交わされるセリフがすべて朝鮮語だからビックリ!「ナチスもの」「ヒトラーもの」をハリウッドが作るとどうしてもセリフが英語になってしまうが、私はそれに強い違和感がある。その典型が『ワルキューレ』(08年)、『シネマ22』115頁)だ

った。そこで、私は「題材はベストだが、トム・クルーズでは？」の見出しで違和感の強さを訴えたが、さて、あなたは？他方、クエンティン・タランティーノ監督の『イングリシアス・バスターズ』（09年）（『シネマ23』17頁）では、主役のブラッド・ピットがヒトラー暗殺を目指す特殊部隊「イングリシアス・バスターズ」のリーダーだったから、英語をしゃべったのは当然。そして、彼以上の存在感を見せたドイツ人将校ラング大佐やドイツ人の女優役を演じたダイアン・クルーガーがドイツ語をしゃべったのも当然だから、全体を通して安心感・安定感があった。

そんな観点から見ると、日本陸軍の軍営における朝鮮人の新兵いじめを延々と描く本作のセリフがすべて朝鮮語とは、いくら何でもノーサンキュー！

■□■秀子とのロマンスにも大きな違和感が！■□■

本作は日本陸軍の新兵いじめ、二等兵いじめの執拗さと陰湿さを描く一方、ア・ロウンの先輩の一等兵で、東京帝大生の中村から可愛がられる姿の他、中村から紹介された美しい従妹の秀子とのラブロマンスを描いていくからびっくり！二等兵の分際でいかに休日とはいえ先輩の自宅を訪れ、その風呂に浸かり、秀子から背中を流してもらうなんて……。秀子はあの当時には珍しく自立した女だったうえ、思想的にも極めて“自由”だったから本作にみる二人のやり取り（議論）は絶品だ。

しかし、ホントにこんなことがありうるの？私には大きな違和感が！

■□■クライマックスの名古屋大空襲の悲劇にも違和感が！■□■

戦況が悪化する中、B29による本土爆撃が拡大し、1945年3月10日の東京大空襲、3月13日の大阪大空襲に続いて、名古屋も3月19日には無差別焼夷弾爆撃を受け、死者1037名、負傷者2813名、焼失3万6千戸という大被害を受けた。その時に撃墜されたB29からパラシュートで降り立った米軍捕虜に対し、略式手続によって斬首処刑命令を下した東海軍司令官、岡田資がB級戦犯（通例の戦争犯罪）として裁かれる姿を描いた映画が、『明日への遺言』（07年）（『シネマ18』243頁）だったが、本作のクライマックスもその名古屋大空襲の悲劇になるので、それに注目！

もっとも、その前には、秀子の妊娠を知ったア・ロウンが軍隊から脱走するストーリー、さらには追手の追及を逃れるため、自身の死亡を偽装するストーリーがあるので、それにも注目だが、それを見ていると、ア・ロウンの行動力はなんともすごい！しかし、名古屋大空襲によって丸焼きにされた死体が並ぶ中に、ア・ロウンの死体も……。ところが、日本陸軍は名古屋大空襲の事実を隠蔽するべく、柵の向こうで嘆く遺族たちを尻目に、死体にガソリンをかけて焼却し始めたからビックリ！いくら何でも、当時の日本陸軍がそんなことをするはずはないのでは？

そう思っていると、そんな中であつと驚くラストシークエンスになるので、それはあなた自身の目でしっかり確認してもらいたい。しかし、私はこのラストにも大きな違和感が！

2020（令和2）年3月30日記